

# しめっちネット 活動と会員

かつて石狩川流域に広がっていた広大な湿地は農地開発やインフラ整備によってほとんどが失われ、それとともに豊かな自然環境や生活文化も姿を消しました。現在残されたわずかな湿地などの環境は各地域の市民団体などが保全・利活用の活動を進めていますが、常に失われる危機に瀕しています。そこで、たくさんの人に湿地の魅力と価値と現状を伝えるため、各地の団体がつながって力を集め、湿地の未来を作っていくと結成したのがこのネットワークです。

私たちは、環境の保全・再生・研究や、持続的な利活用の推進を行い、貴重な文化や自然環境を未来に残すために活動を行っています。また、湿地と地域社会のパートナーシップを作り、育てることで地域の活性化と湿地・人が共生する地域社会の形成を目指しています。

**仲間募集！**一緒に活動してくれる仲間や活動への支援を募集しています。身近な自然環境について、ともに考え、行動しませんか？

## ● 正会員

当ネットワークの趣旨に賛同し、運営に協力する意思がある  
対象あり、石狩川流域の湿原・水辺・海岸の環境保全・動植物保護に何らかの形で関与する団体。ネットワークの運営に参加することができます。

年会費 5,000 円

## ● 賛助会員

当ネットワークの趣旨に賛同し、財政面で協力する意思のある個人や団体。メーリングリストでネットワークの情報が提供されます。

年会費 5,000 円（団体） 1,000 円（個人）

## ● サポーター

当ネットワークの趣旨に賛同し、活動に興味のある方に登録いただけます。ネットワークのイベントや情報をお届けします。

## お問い合わせ・お申込み

### 石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク（しめっちネット）

〒 札幌市中央区南 8 条西 2 丁目 5-74 市民活動プラザ星園 201 号（北海道 NPO サポートセンター内）

TEL 011-200-0973 E-mail info@ishikarigawa-net.com

HP http://ishikarigawa-net.com/



※「しめっち通信 vol.7」は、独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて制作されました。



石狩川流域の湿地保全団体等をつないで、0.1%まで減ってしまった湿地の保全を進め、そのために多くの市民に湿地の魅力や大切さと危機を伝えるべく「しめっちネット」が設立されて、この春で5年となります。産まれるときも大変でしたが継続も簡単ではなく、当初目指していた湿地の保全は十分な成果とは言えません。今後もエンタメや映像、さらにVR等も取り入れて多種多様な仲間を作りながら、進めていきたいと思います。ご協力いただければ幸いです。



通信  
vol.7  
Apr. 2022

12月19日に「湿地文化体験～湿地に生えるスゲでしめ縄を作ろう～」を開催しました。講師として二杉寿志さんをお迎えし、昨年度よりも募集人数を増やして行いました。

まず湿らせたスゲの束を3等分し、芯となるアンコを入れながら編み上げ、輪の部分を作ります。その後、もう一束のスゲを3等分して輪に差しこみ、足の部分を作ります。最後に飾りの意味を1つずつ確認しながら固定し、立派なしめ縄の完成です！近年は輪の部分だけのリース型のしめ縄も多いですが、足の部分には「邪気を払う」という大切な意味があると言われています。

しめ縄の材質は、稻わら・スゲ・マコモなど地域によって異なり、寒冷地の北海道ではスゲ製が多いようです。ひと昔前には、スゲが生育するような湿地はあちこちにありましたが、現在ではそのような湿地やスゲも貴重なものとなっています。市販されているしめ縄はナイロンや中国産のスゲでできたものばかり…神

社のしめ縄でさえ、そのようなものが増えているのだと。北海道でもスゲが採れる場所が減少してしまい、今回のスゲは東北地方で採れたものです。一昨年訪問した函館市の道南四季の杜公園では、棚田の一部をスゲ田にし、そこで育てたスゲでしめ縄を作られていました。3年前に訪問した、千歳市の泉郷神社に立派なしめ縄を奉納されている方々からは、カサスゲが採れていた地元の湿地がなくなったと伺いました。現在は貯蔵しているものを使い、アンコには違う地域で採れた別種のスゲを利用していました。

今後も当会では、湿地の減少とともに消失の危機にある文化を体験する機会を作り、多くの方々に湿地の魅力を伝えたいと考えています。スゲが生育する湿地を残したり、スゲを育てる場を作ったりなど、道産のスゲでしめ縄を作る文化を残す活動も思案中です！

今回の湿地文化体験を通して、スゲや湿地に少しでも興味を持ってくれた方がいらっしゃればとても嬉しいです。

湿地に生えるスゲで  
しめ縄を作ろう

# 浜厚真 Bio Blitz

[www.hokkaidoramsarnetwork.com/bioblitz2021](http://www.hokkaidoramsarnetwork.com/bioblitz2021)

浜厚真の生き物、全部で976種類。そのうち、絶滅のおそれがあるのは80種類。

大規模風力発電事業の計画地となっている浜厚真。その自然の豊かさを明らかにするため、市民科学による生物相調査「浜厚真BioBlitz2021～キセキの海岸で本気のイキモノ探し～」を実施し、調査結果の一部をわかりやすく解説した冊子「なんにもないから、たくさんいる」を作成しました。調査を通じて、浜厚真是道内でも有数の生物多様性の宝庫であることがわかりましたが、風力発電施設の建設は、チュウヒやアカモズなど絶滅が危惧される生物にとって直接的な脅威となり、生息環境の変更や生物間の相互作用を通じて、他の多くの生き物にも深刻な影響を及ぼす可能性があります。調査結果の詳細は特設サイトで公開していますので、ぜひご覧ください。



## 環境DNA

かんきょうディーエヌエー

近年、環境DNAという言葉が、各種メディアで話題になっています。環境DNAとは、「環境中に放出された生物由来のDNA」のことです。水中や土壤中、空气中などのあらゆる環境の中には、そこに生息している生物に由来するDNAが存在しています。そのDNAを総称して環境DNAと呼んでいます。環境DNAを解析することで、ある特定の種が生息しているかどうかを判定したり、その環境に生息する、または過去に生息していた生物を網羅的に特定したりする手法が開発されています。

自然環境やそこに住む生物の保全を行う上で最も重要な情報は、生物の生息分布や生物量です。生物の生息分布や生息量を知るために、目視で数える、採集を行う、網を仕掛けるなど、多大な労力と時間をかける必要がありました。これに対して環境DNAによる生物調査は、少ない労力で調査が可能であり、更に遺伝情報など新たな情報を得ることが出来る可能性を秘めていることから、今後の調査に期待されている手法です。

しめっちネットでは、この環境DNAを用いて、湿地環境を評価できないかと研究に取り組んでいます。湿地に依存する特定の生物を指標種として、これが生息しているかどうかについて環境DNAを用いて調査することで、湿原の健全度や湿原の由来を評価するといった試みです。

この評価手法を確立するためには、どういった生物種が指標種として適しているか、環境DNAを含む現地の水をいつどのように採取すると効果的かといった課題があります。現在、この課題に対して、現地採水試験やその分析を行って、適切な手法を模索しています。

現地の水を採水分析するだけで、どんな湿原かが理解できる、そんな未来の実現に向けて！ご期待ください！



## 湿地の恵みと文化 その①

秋の湿地の恵みの代表格のひとつは「ヒシの実」で、今秋も少し収穫をしました。ヒシ(菱、学名：*Trapa japonica*)はミソハギ科の一年草の水草で、池沼で葉を水面に浮かせている浮葉植物。実は食用として利用され、栗のような味がして、炊き込みご飯でも美味しく、古くは菱餅にも使われていました。アイヌ民族は「ペカンペ」と

### ペカンペ (ヒシの実)



呼んで、重要な食糧または薬とされたそうです。塘路湖沿岸では、「ペカンペカムイノミ(菱の実祭り)」という収穫祭が行われていました。また佐賀県神埼市では、焼酎の原料にするだけではなく、盤に乗っての収穫は観光名物ともなっています。また殻の棘は鋭く、刺さって抜けない形をしていることから、忍者の撒き菱ともされました。

### しめっちラム



[www.youtube.com/channel/UCwX3v06CpUrOus\\_Wz4xh-dg](https://www.youtube.com/channel/UCwX3v06CpUrOus_Wz4xh-dg)

しめっちカフェは、仕事帰りにお酒やお食事を楽しみながら湿地や自然に関わる取り組みを聞く交流会です。2020年以降は、新型コロナウイルスの蔓延により、対面で話すことや集まることが難しい日常が続き、思うように開催できないことが続いていました。2020年は、ハイブリッド形式での開催を検討しましたが、対面での開催が難しく断念していました。2021年からは、オンラインで東北大学の内田典子さん、サロベツ・エコ・ネットワークの吉原努さん(当時)を招き、久しぶりにイベントを開催できました(Youtubeしめっちチャンネルでご視聴ください)。オンラインでの開催を通じ、対面開催の良さとは、違う魅力を感じます。ハイブリッド開催が気軽にできるのが待ち遠しいです。将来的には、遠方の自然や湿地を身边に楽しめるような、スマホでいつでも簡単に触れることができるハードが増えていくと嬉しいです。



### activity

## VRワークショップの実施



続くコロナ禍、そして日常的に触れるメディアの変化にも対応し、より多くの市民を湿地に誘う入口として、新たなメディアによる発信を模索中です。今回はVR(バーチャルリアリティ)を取り上げ、専門家や学生らと共にVRを用いた湿地体験の可能性について検討しました。オンラインとリアルでのハイブリッド形式でVR空間を体験し、シマアオジをモデルにしたゆるキャラのアバターに解説者が入り、湿性植物等の解説も行いました。酪農学園大学や北海道大学の生物系の学生と北海道科学大学のメディア系の学生との意見交換も活発に行われ、多くの可能性を感じられました。今後も検討や試行を継続し、より幅広い市民に湿地に関心を持つてもらえるような活動を行っていきます。

### activity

## しめっちネットでのSNS発信

音声SNS "clubhouse"にて、しめっちネットが紹介されました！

"clubhouse"のグローバル共和国の番組内で、「ハスカップから始まる湿地物語共和国」を第1・第3木曜日の20時～21時に開催しています。番組では、ミズゴケ里親制度、YouTubeしめっちチャンネルの紹介やハスカップのレシピ作成と、色々な情報を発信中。Facebook LIVEも配信して新しい魅力を発信しています。アーカイブもあるので、後からでも視聴できます！

※「[「湿地物語共和国 ハスカップから始まる湿地物語」と検索していただき、その概要欄にあるURLから視聴できます。ぜひご覧ください！](#)



みなさんはじめまして、今回湿地について書かせて頂くことになった平木麻結です。私は湿地に関しては何も知識がなく、でもアップダウンさんの紹介動画を見て案外湿地は私たちの身近なところで使用されているということや北海道にたくさんの湿地があるということを紹介動画で知り、そこで初めて少しずつではありますが、湿地について学ばせて頂いています。私は22歳で、湿地について知ろうと思うことは今回のようないい處がなければ、正直興味はありませんでした。なので私のようなタイプの若年層にもっと広がるよう湿地のことを分かりやすく、アニメ風に紹介するのも良いと思いました。私は以前ジブリの「思い出のマーニー」を何気なく観て思い出のマーニーの舞台も釧路湿原だったのを思い出したのですが、内容が難しく、中々頭に入らなかったのでそういうふうな…?と思いつく程度で、私はクレヨンしんちゃんが好きなのでクレヨンしんちゃんのアニメで風間トオルくんが湿地のことをかすかに説明するストーリーだったらみんなが楽しく観られる…?のではないかなと思いました。

